

製造業向け収益向上のための原価管理システム構築【オンラインライブ】（4124246）

「儲かる工場」の実現に向けた仕組み、仕掛けを紹介します。一番大事なことは正しい考え方・方法と手順でやるということです。まず、 本当の「原価」とは何かを明らかにし、次の一手として原価管理システムを構築します。何よりも大切なことは正しい「管理技術」に気づくことです。この管理技術の一つが原価管理です。

開催日時	2024年5月23日(木) 9:00-16:00ライブ配信	
JUAS研修分類	ビジネススキル(業種・業務知識)、共通業務(財務・税務・会計)	
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル	
講師	八木弘泰 氏 （株式会社管理技術ラボ 代表取締役 ） 中小企業診断士、特種, 一種情報処理技術者。 富士通の SE として、製造業向けのシステム構築に17年間従事。 本邦初の生産管理パッケージ「MAPS-V1」を開発。2010年「管理技術」の製造業・農業他への普及、定着化のため、「管理技術ラボ」を設立し、「製造業の競争力強化」のため、超上流工程から定着化・効果測定まで「業務再構築」が実施できる「ASGUIDE」を開発し、事業展開を行っている。 注)「ASGUIDE」とは、業務再構築のため管理技術を駆使したコンセプト・メソッド・ツールを体系化した方法論	
参加費	J U A S 会員/ITC：35,200円 一般：45,100円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】	
会場	オンライン配信（指定会場はありません）	
対象	原価管理の設計、保守、運用を担当されているSE 中級	
開催形式	講義	
定員	25名	
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）	
ITCA認定時間	6	

主な内容

■受講形態

ライブ配信（Zoomミーティング）【[セミナーのオンライン受講について](#)】

■テキスト

開催7日前を目途にマイページ掲載

■開催日までの課題事項

特になし

製造業向け収益向上のための原価管理システム構築
～「儲かる工場」の実現のために「管理技術」に気付く～

残念なことに「一生懸命に間違ったことをやる」ということが散見されます。
一番大事なことは正しい考え方・方法と手順でやるということです。
本セミナーは「儲かる工場」の実現に向けた仕組み、仕掛けを紹介します。
まず、 本当の「原価」とは何かを明らかにし、次の一手として原価管理システムを構築します。
何よりも大切なことは正しい「管理技術」に気づくことです。この管理技術の一つが原価管理です。

■主な内容

第1部 原価管理で利益を上げる

1. すべての企業で「原価計算」は実施

ーそれは、財務会計目的の「ドンブリ勘定」の原価計算です

2. 儲けるための原価計算は「製品別原価計算」

ー製品別とは、中間品目も部品も原価が計算できる仕組み

3. 原価計算は、単純な計算

- －材料費、労務費、経費の費目毎に「単価×数量」で求める
- －費目の設定で悩みます－目的を定め自由に費目設定する
- －化粧品会社は材料費を容器費・原料・副原料に費目を設定

4．原価計算の概念図

- －一般の原価計算とABC原価

5．実際原価計算のウソ

- －コンピュータで正確に製品別実際原価表が計算されるが

6．真の原価とは

- －本当の「製品の原価を知りたい！それは実際原価、標準原価
- －多くのトップは、「実際原価」を知りたい

7．真の原価は標準原価

- －実際原価は製造都度変動、製造後確定する事後情報
- －標準原価とは、「正しい方法・手順」で製造された際の原価

8．「正しい方法手順で制作された際の原価」が標準原価

- －歩留0、操業度100％等々の理想原価ではなく、現行のレベルの生産技術等を加味し、かつ科学的に設定された原価

9．正しい実際原価を求める解決策は 10．原価管理とは

- －「基準・標準」の存在に対して、「実際」を把握し、「差異」を改善
- －原価は、前述の単価×数量ですから、単価差異＋数量差異＝原価差異
- －さらに単価差異をドリリングして、操業度差異、予算差異等を把握改善

10．原価管理は標準原価と実際原価で成り立つ

- －基準・標準の無い仕組に「管理は存在しない」＝管理技術の基本

11．何が何でも「標準原価」の仕組を作る。（部品・原材料）

- －原価標準を設定する 13．何が何でも「標準原価」の仕組を作る 2（加工費＝労務費＋経費）
- －5％程度、「作業標準」を真面目に設定、他の品目はポイント法で設定

第2部 原価管理システム構築手順

1．目的の選択

- －財務会計に正しい原価を提供したい
- －特定の製品の実際原価を知りたい
- －商談毎の見積原価を算出したい
- －限界利益から製品のプロダクトミックスを
- －原価低減を継続的に実施したい

2．原価計算の選択

- －商的工業会計
- －特殊原価調査と原価計算制度
- －見積原価計算
- －直接原価計算と全部原価
- －標準原価と実際原価：原価管理

3．原価管理の構築手順

- －目的の選択
- －原価低減を継続的に実施する
- －抜本的構築と暫時的構築

4．設計項目と方法

- －費目の設計
- －原価部門の設計
- －チャージ計算
- －製造間接費の配賦基準
- －ABC原価

5．定着化と管理職の役割

第3部 管理技術で利益を上げる

1．管理技術による利益の獲得（利益率5割アップ）

- －「管理技術による利益」
- －獲得される「利益項目」の説明
- －「業務再構築（BPR）」の目的は、「新たな利益の獲得」その一部が原価管理

2．管理技術とは

- －業務知識ではない

－「正しい考え方・正しい方法手順」が存在する

3. 業務毎の正しい方法手順とは－各業務の目的は何か

－在庫管理：「在庫精度の維持」が目的…在庫低減ではない

－工程管理：「作業指導」が目的

－某社の工程管理のタブレット失敗例 製造業向け収益向上のための「原価管理システム構築手順セミナー」